

# これからの環境保全活動について

日東電工グループでは、すべてのグループ会社の環境負荷データを把握・管理し、グループ一丸となった環境保全活動を推進していくため、「環境経営指標」と「環境行動指標」を策定しました。2006年度中に世界のグループ会社で使用できるデータベースを稼動し、本格的なグループ環境経営に努めていきます。

## 「環境経営指標」と「環境行動指標」の策定

### 2006年度からはグループ一丸となって、「地球温暖化防止」と「枯渇性資源の有効利用」に取り組みます

京都議定書が2005年2月16日に発効し、地球温暖化防止への取り組みが一段と注目されています。また一説によると、石油資源はあと40年で枯渇するといわれていることをはじめ、限りある資源の有効利用や資源循環型社会の形成がますます重要になっています。つまり、「地球温暖化」「資源の枯渇」という2つの問題は、新たな経営リスクであるという認識が必要となってきました。こういう情勢の中で、事業活動を続け成長し続けるためには、日東電工グループの地球環境保全に対する考え方と、行動を具体的に示す必要があります。

そこで2005年度に、環境効率(創出付加価値と環境負荷との関係)を総合的に評価する「環境経営指標」とその中長期目標値を設定しました。

しかし「環境経営指標」だけでは、世間で注目を集めている「地

球温暖化防止」と「資源生産性」に対する具体的な取り組み姿勢を示すことが困難です。そこで、これまでの環境ボランティアランに代わり、活動を評価する指標として「環境行動指標」を定めました。2006年度からは、グループ一丸となって「地球温暖化防止」と「資源生産性の向上(枯渇性資源の有効利用)」に取り組んでいきます。

## 環境行動指標とは

### 3テーマ、7つの指標で目標値を設定

エネルギー有効利用	産業廃棄物削減	化学物質管理
<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー原単位</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産廃発生量原単位</li> <li>単純焼却・埋立処理量</li> <li>再資源化率</li> <li>産廃原価比率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機溶剤購入量原単位</li> <li>有機溶剤大気排出量</li> </ul>

## 環境経営指標とは

### コンセプト

- 事業活動によって発生するすべての環境負荷低減に取り組む。
- 環境負荷は、地球温暖化対策を視野に入れ、CO<sub>2</sub>換算量で定量的に把握する。  
(京都議定書で定める地球温暖化ガスの排出量のみならず、その他の環境負荷に関しても、その環境負荷にともなうCO<sub>2</sub>の見なし排出量を算出し、すべての環境負荷をCO<sub>2</sub>換算量で把握する)
- 環境負荷と創出価値との関係进行评估し、付加価値生産性の向上をめざす。

### 目標値

- 2005年度を基準として、2015年度に環境効率(環境経営指標)を2倍にする。

### 環境経営指標

事業活動によって創出した付加価値と、それにともない発生した環境負荷との関係。

$$\text{環境負荷付加価値生産性} = \frac{\text{付加価値(企業価値)}}{\text{環境負荷(CO}_2\text{換算量)}}$$

付加価値(企業価値)とは…営業利益、販売管理費、製造経費など、企業活動によって創出した価値

## 事業活動によって発生する環境負荷

環境負荷発生の要因		環境経営指標に算入する環境負荷(CO <sub>2</sub> 排出量に換算)		
		直接排出(京都議定書の対象)	間接排出(自主的に算入)	見なし排出(自主的に算入)
エネルギー	生産プロセスの動力に使用	温暖化ガス		
有機溶剤	内部処理	燃焼処理 回収処理	温暖化ガス	
	外部処理	マテリアルリサイクル サーマルリサイクル		見なし排出
	大気放出		温暖化ガス	見なし排出
産業廃棄物	内部処理	マテリアルリサイクル サーマルリサイクル	温暖化ガス	
	外部処理	マテリアルリサイクル サーマルリサイクル 単純焼却・最終処分		見なし排出
その他	その他温暖化ガス	温暖化ガス		
	フォークリフト・営業車等の使用	温暖化ガス		
	製品物流		温暖化ガス	